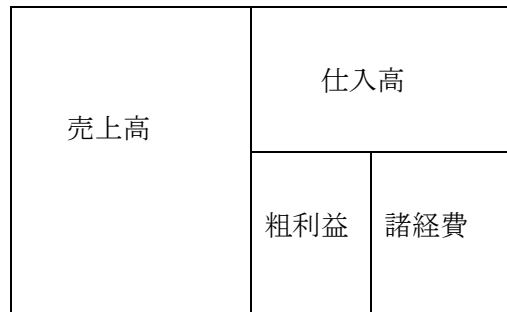


日本一やさしい？損益分岐点の解説

損益分岐点とは、簡単に言うと、粗利益（売上高－仕入高）と給料・水道光熱費・家賃などの諸経費（固定費）がイコールになる状態を言います。

図で表すところいう状態です↓

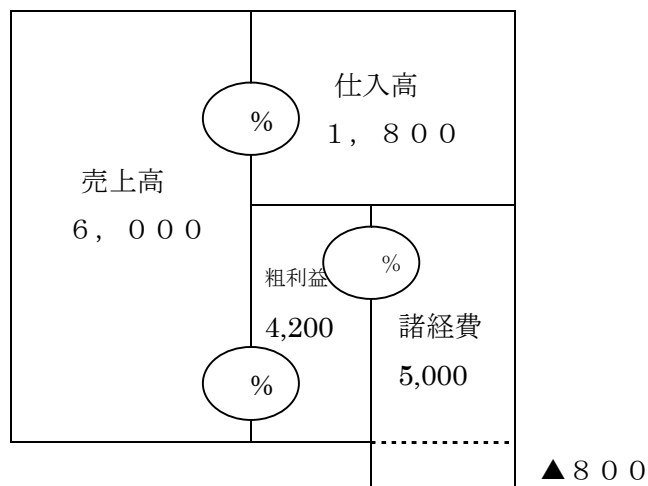


粗利益＝諸経費、つまり、利益が全くでていない（利益がゼロ）ときの売上高が、損益分岐点売上高です。

具体例で説明しましょう。

売上高が6000万円、仕入高1800万円、諸経費5000万円のお店があるとします。

上の図に当てはめると、



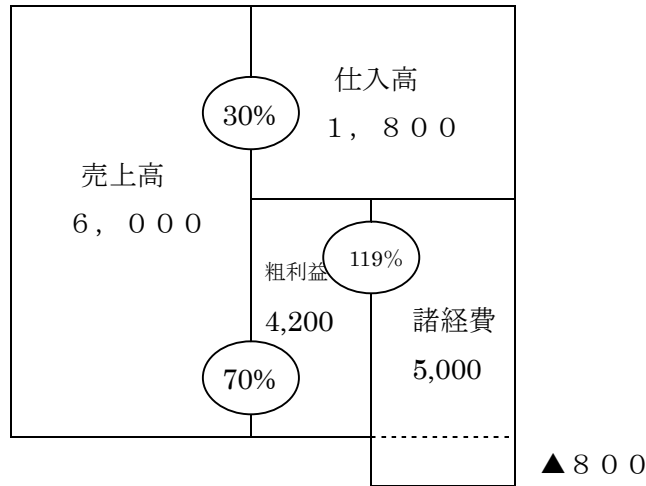
となります。粗利益より諸経費の方が多いため、800万円の赤字になってしまいます。

では、上の図の $\textcircled{\%}$ のところを計算してみましょう。

一番上の $\textcircled{\%}$ は原価率で仕入高÷売上高、真ん中ちょっと右の $\textcircled{\%}$ は損益分岐点比率といひ諸経費÷粗利益、一番下の $\textcircled{\%}$ は粗利益率で、粗利益÷売上高で計算できます。

原価率は30% (1800 ÷ 6000)、損益分岐点比率は119% (5000 ÷ 4200)、利益率は70% (4200 ÷ 6000) となりますね。

損益分岐点比率が100%を超えると、経常利益は赤字になります。

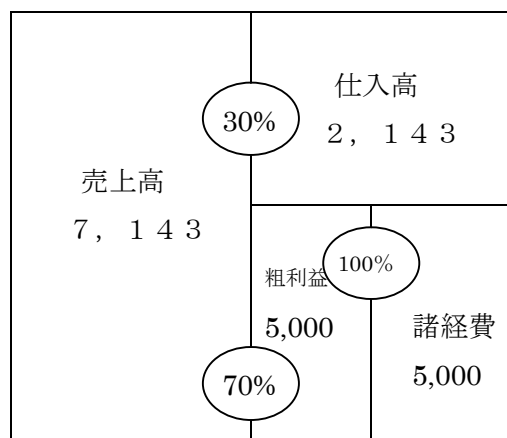


で、最初に言いましたが、損益分岐点は粗利益と経費がイコールになる、つまり、粗利益が5,000になる状態をいいます。

上の図で、売上高の70%が粗利益になると計算できましたね。

原価率が一定だとすると、逆算して、5,000 ÷ 70% = 7,143万円が損益分岐点売上高ということになります。

また、6,000 × 119%でも損益分岐点売上高を計算できます (割切れないため、端数を切り捨てています。6,000 × 119.05%で計算してみてください)。



計算できましたか？

この図のような金額になります。

意外に簡単でしょう？

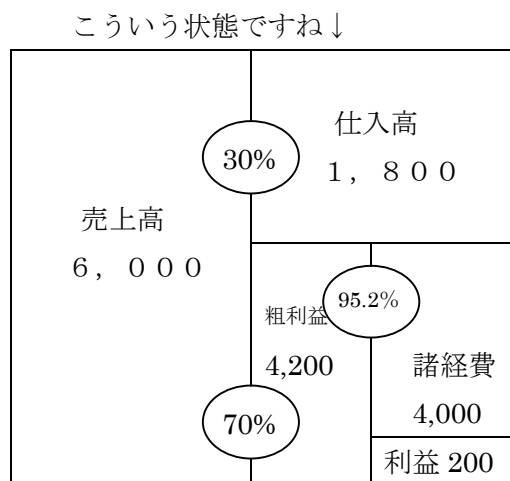
まず、これらのことを理解してください。それから、ちょっと応用すると、利益計画が作成できるようになります。

チャレンジしてみてください（例えば、粗利益を 6000 万円にするためには、 $6000 \div 70\% = 8,571$ 万円の売上が必要になりますが、可能かどうか。原価率を下げられないだろうか。諸経費をもう少し減らせないだろうか、といったシミュレーションができます）

※諸経費を変動費、固定費とその内容を細かく区分して分ける場合がありますが、基本的には、仕入・外注費以外の経費が固定費だと考えていただいて差し支えありません。

【補足解説】

黒字のお店の経営者の皆様が混乱しないように、先の具体例で諸経費が 4,000 万円だった場合はどうなるのか、を補足しておきます。



損益分岐点売上高は

$4,000 \div 70\% \doteq 5,714$ 万円 ($6,000 \times 95.23\%$ でも計算可)

仕入高は

$5,714 \times 30\% \doteq 1,714$ 万円

となります。